

ぶらりわが街宮沢界隈

(40) シリーズ連載の追記・現状・構想 -VI- 11-

「青梅線」市域の駅・周辺整備及びなぜ・はてな

(「⑬青梅鉄道 1～11・(25) 青梅線の今 1～11」記載)

拝島駅周辺整備事業—青梅線・五日市線・八高線・西武鉄道拝島線が乗り入れている拝島駅は、青梅線各駅の中で立川駅に次いで多くの乗客が利用しています。以前の拝島駅は乗客やタクシーなどが混在する狭い駅前や、構内の連絡通路はラッシュ時には多くの利用者であふれ、危険な状況になることもありました。拝島駅の改良は永年にわたる多くの市民の声でした。そうした声に応えるために、拝島駅周辺整備事業が推進されました。



①拝島駅自由通路・橋上駅舎整備事業、②拝島駅周辺道路整備事業、③拝島駅周辺まちづくり計画の推進、この三つです。平成17年(2005)9月着工式が行われ、①は、22年(2010)3月南北自由通路及び橋上駅舎工事完了。通路の南側からは富士山が眺望でき、近隣市で駅から富士山が見える唯一の駅となりました。②は、駅南側の隣接連絡市道3.4.2号線、松原町四丁目交差点から国道16号線(東京環状線)武蔵野橋南交差点までの延長と、南口駅前広場の整備が28年(2016)3月全て完成しました。



・ ②の中に駅前広場地下を利用した自転車等駐輪場の整備が含まれ、26年(2014)12月完成。駐輪場を地下にした理由は通りやすくして、利便性を高め、安全な歩行空間を確保する目的でなりよりも駅に直近です。

特徴は市域初の地下駐輪場であり、かつ殆んど機械式の上二段式ラックで、収容能力は2450台。利用にはカードが必要で、この管理も機械化がなされており、定期利用は利用カード発行、一時利用は出口積算方式で便利な駐輪場です。



・ 八高線拝島駅上りホームに昇降式ホーム柵「ホームドア」27年(2015)3月試行導入。4両編成による16か所のドア位置に対応し、ドア部分をバーに替えた軽量型で、支柱間に取り付けられた3本のバーが列車到着時に約240cm上昇する。1開口あたりの重量は山手線よりも約100キロ軽い約240キロ。ホームの補強が不要となり、工事費は半分程度という。

*「ホームドア」:18年(2006)に施行された「バリアフリー新法」で、新設駅へ義務づけられた。ホームは「欄干(らんかん)のない橋」に例えられ、視聴覚障害者や「歩きスマホ」などが原因でのホーム上や線路への転落後に列車と接触事故防止策で、東京・パラリンピックが開催される2020年まで国土交通省は、乗降客10万人以上優先に約882駅での設置を目標。



・ 拝島駅階段で「あきしまの水」住みたい街へロゴでPR—都内の区市町村で唯一、深層地下水のみを水源とする市が水道水のPRに力をいれている。市内の駅で最も乗降客数が多い拝島駅の南・北階段計3か所に十数段にわたる大きな3色(オレンジ、ライトグリーン、水色)の鮮やかな色違いのロゴマークを29年(2017)5月施し、利用客の視線を集めている。

・ 「はいじま駅マルシェ」—拝島駅改札内の特設スペースで多摩地域の農家が、朝収穫したばかりの新鮮な野菜が店頭に並び、駅利用者らでにぎわっています。29年(2017)5月20日初出店。毎月第3土曜に同駅で午後1時まで定期開催されています。

(写真上から—拝島駅南口駅前広場、拝島駅南口地下自転車等駐輪場、八高線ホームドア、駅階段の「あきしまの水」ロゴマーク

(文・写真)防犯宮沢支部 西山 禎一